

コロナとインフルエンザを一度(一緒に)検査ができます
コロナも抗原検査ですのでその場で結果ができます
公費(無料)です(12月24日現在)

発行元

西村クリニック

四條畷市橋公 1-14-6

072-862-3001



「雑学のすすめ」

「わが庵は松原つづき海近く 富士の高嶺を軒端にぞ見る」これは室町時代後期武人であり歌人である太田道灌が自ら築城した江戸城から富士山を眺めてて詠んだ歌です。

ある日太田道灌は鷹狩りに出て雨に会い一軒の貧しい農家に立ち寄りて蓑を借りようとしました。その時家の奥から少女が出てきて申し訳なさそうに山吹の花を差し出してそのまま引つ込んでしまいました。太田道灌は欲しいのは蓑であつて山吹の花ではないと怒って帰りました。帰つてこの事を家臣に話すとある家臣は「七重八重花は咲けども山吹の実の一つだになきぞ悲しき」(山吹の花は美しく咲くけれど実が一つもつけないは残念な事だという意味)という有名な和歌にかけ「実の」一つだになきぞ悲しきを貧しくて「蓑」一つも貸してあげられなくて残念ですという意味でしょうと述べました。これを聞いて太田道灌は自分の無学を大いに恥じ、その後武士にとつては雑学と言える和歌の勉強に励んだという事があります。

さだまささんの歌に「雨やどり」という歌があります。この歌の中でとある女性がある雨の日自分の家の軒先で雨に濡れ雨宿りをしている男性を見つけてスヌーピーのハンカチを貸してあげましたが傘の方がもつと良かったかなあという一節がありますが、思うにこの一節は先程述べた太田道灌の逸話から題材を得たのではないかと私は推察しております。



さだまささんの歌には他にもこんな歌があります。平安時代九州に左遷された菅原道真が「東風(こち)吹かばにほひをこせよ

梅の花。主(あるじ)なしとて春な忘れそ」(春風が吹いたら京から大宰府まで匂いを送っておくれ梅の花よ。主人の私がないからと言って春を忘れてはならないぞの意味)と詠んだ時、京から大宰府まで梅の木が飛んで行って大宰府天満宮に根付いたという飛梅(とびうめ)伝説を題材にし、「こち吹かば」という文言を歌詞に入れた「飛梅」という歌です。さださん自身かなり雑学をされている方であり、その知識が本職の歌の中に生かされている様に思います。

さて明けて二〇二三年が始まろうとしています。この様に人生生きていく上には雑学が大いに必要になると思います。今年もいろんな事に興味を持って雑学し、自分の感性というものを磨いていけたらなあと思う次第であります。

院長 西村 章

年末に血液検査をした院長のデータを㊦で一部公表します(*^▽^*)HDL コレステロールは79、LDL コレステロールは98、なんと中性脂肪は42です♪もちろん他の項目も一切引っかかるものはないです(#.^.#)5回目のワクチン接種もした院長のコロナの抗体検査の結果は8万以上と測定不能の高さでした。4回目ワクチン接種済の次男も8万超えでしたが私は36000ほどでした。この差は日頃の鍛錬かと個人的には思いました。何かと食べてしまうこの季節。院長とともに軽い運動を心がけ体重の増加にも気をつけましょう♪

先日あるアーティストのコンサートに行ってきました。感動しました。若い方にはピンとこないのかもわかりませんが(ご本人もおっしゃってました)一日一日を大切に生きることをお話されていました。あの人に会いたい、あれをしておこうなど直感で思うことを後悔ないようにしておこうとおっしゃってました。ついつい色んなことを先延ばしにしてしまいそこへ寒さも加わり腰が重い今日この頃。あっという間にまた年末と思いながらいますが計画を立てて時間を大切に過ごしたいと思います。



当院のライン公式アカウントです ホームページでは見れない隠しページもありここから当院のホームページも観れる優れものです♪ぜひお友達登録お願いします

編集後記

新しい職員が入っています

なにかと不慣れなため

お時間を頂戴することもあるかと思ひますが

どうぞ宜しくお願いいたします

🌸新年あけましておめでとうございます🌸